

表 10.5-34(4) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		トノサマガエル	
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		I : - II : - III : 準絶滅危惧 (NT) IV : 準絶滅危惧 (NT)	
分布・一般生態		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本州の仙台平野から関東地方を除いた地域、四国、九州、種子島、朝鮮、中国などに分布する。</li> <li>・平地に多いが、適当な繁殖場所があれば山地にも生息する。</li> <li>・繁殖期は4～6月で、多数の個体が水田などに集まる。</li> <li>・卵塊は大きく、800～3,000個の卵を含む。</li> <li>・幼生は最大で70mmほどに成長し、7～9月にかけて変態して上陸する。</li> </ul>	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	早春季調査時に1地点で成体を1個体、春季調査時に1地点で成体を5個体、夏季調査時に1地点で成体を2個体、秋季調査時に1地点で成体の死体を1個体確認した。確認環境は水田や水田脇の用水路であった。
影響 予測	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施により、本種の主な生息環境である水田環境は改変されない。</li> <li>・生息が確認された水田や農業用水路は、工事関係車両の走行ルートから離れていることから、ロードキルは生じないと予測される。</li> <li>・工事の実施に伴い発生する濁水は、生息が確認された水域には排水しない。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	
	土地又は工作物の存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である水田環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。</li> <li>・生息が確認された水田は、廃棄物運搬車両の走行ルートから離れていることから、ロードキルは生じないと予測される。</li> <li>・土地又は工作物の存在・供用に伴い発生する浸出水処理施設の排水は、生息が確認された水域には排水しない。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	

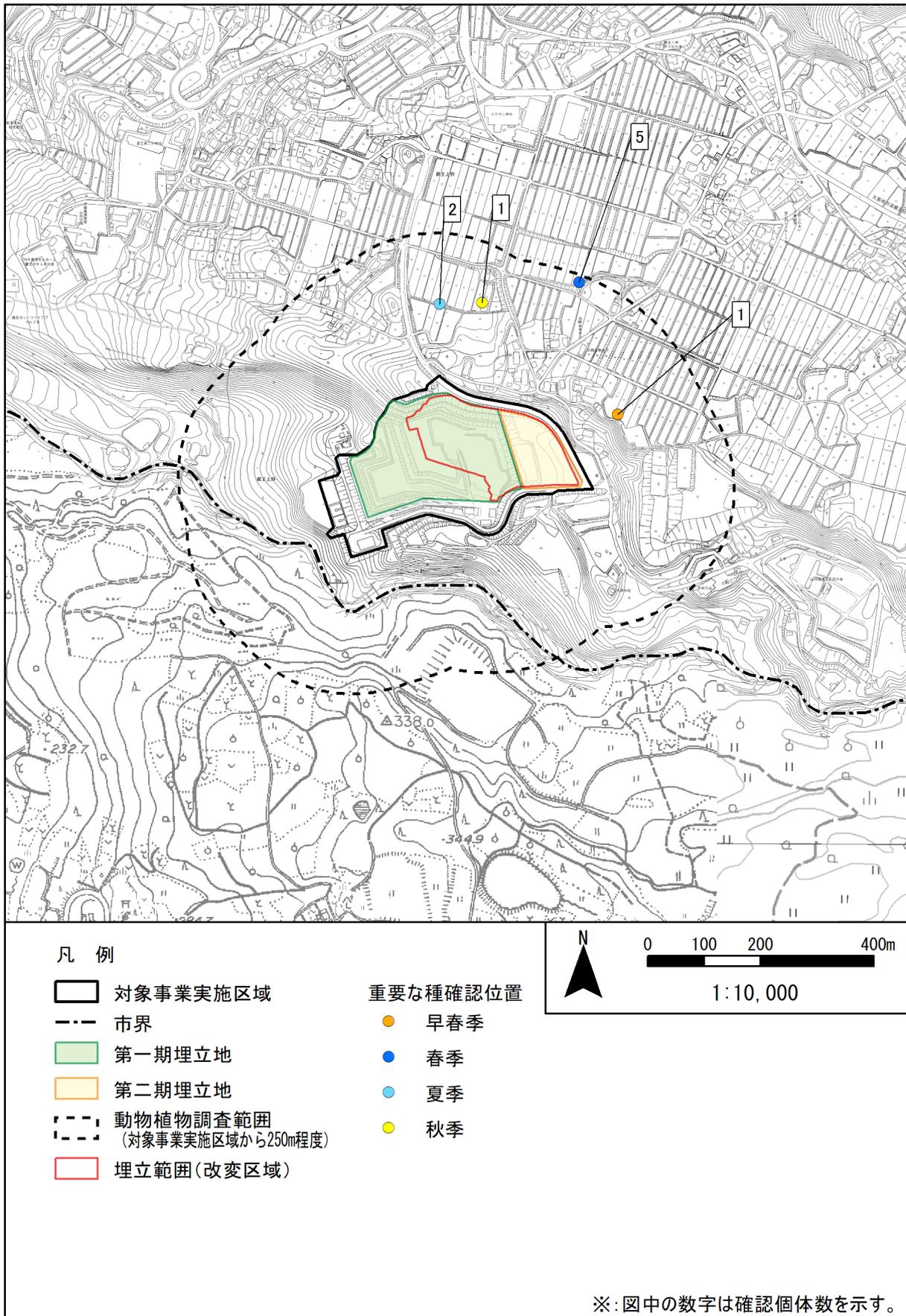


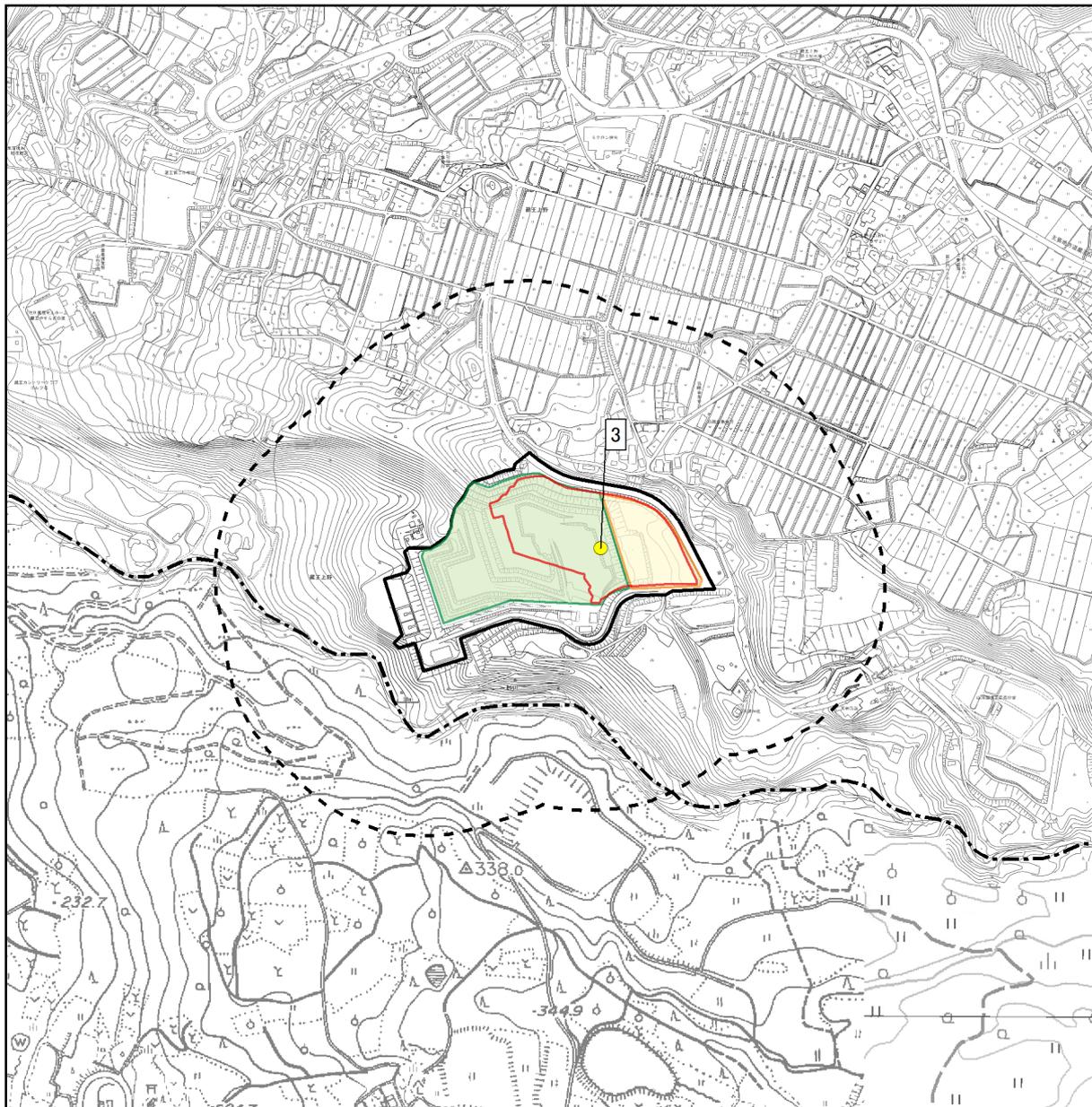
図 10.5-13(4) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図 (トノサマガエル)

6) 昆虫類

昆虫類の重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響の予測結果は、表 10.5-35 及び図 10.5-14 に示すとおりである。

表 10.5-35(1) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		ミツカドコオロギ	
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		I : - II : - III : - IV : 準絶滅危惧 (NT)	
分布・一般生態		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本州、四国、九州、対馬、大隅諸島黒島等に分布する。</li> <li>・鳴き声はハラオカメコオロギに似て、鋭い。卵越冬で年1化。</li> </ul>	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	秋季調査時に1地点で3個体確認した。確認環境は造成地であった。
		対象事業実施区域外	確認なし。
影響予測	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施により、本種の主な生息環境である草地環境の約15.0%が改変される。なお、改変率は本種の生息が確認された対象事業実施区域内で確認された草地環境であるヨモギ・メドハギ群落を対象として算出した。</li> <li>・工事の実施により、生息が確認された対象事業実施区域内の造成地環境が約47.5%改変されるが、本種の主な生息環境である草地環境は対象事業実施区域内及び周辺に広く分布している。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	
	土地又は工作物の存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である草地環境の約15.0%で埋立作業が実施される。なお、埋立作業が実施される草地環境の割合は、本種の生息が確認された対象事業実施区域内で確認された草地環境であるヨモギ・メドハギ群落を対象として算出した。</li> <li>・土地又は工作物の存在・供用により、生息が確認された対象事業実施区域内の造成地環境の約47.5%で埋立作業が実施されるが、本種の主な生息環境である草地環境は、対象事業実施区域内及び周辺に広く分布している。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	



凡例

□ 対象事業実施区域

--- 市界

■ 第一期埋立地

■ 第二期埋立地

--- 動物植物調査範囲  
(対象事業実施区域から250m程度)

□ 埋立範囲(改変区域)

重要な種確認位置

● 春季

● 夏季

● 秋季



0 100 200 400m

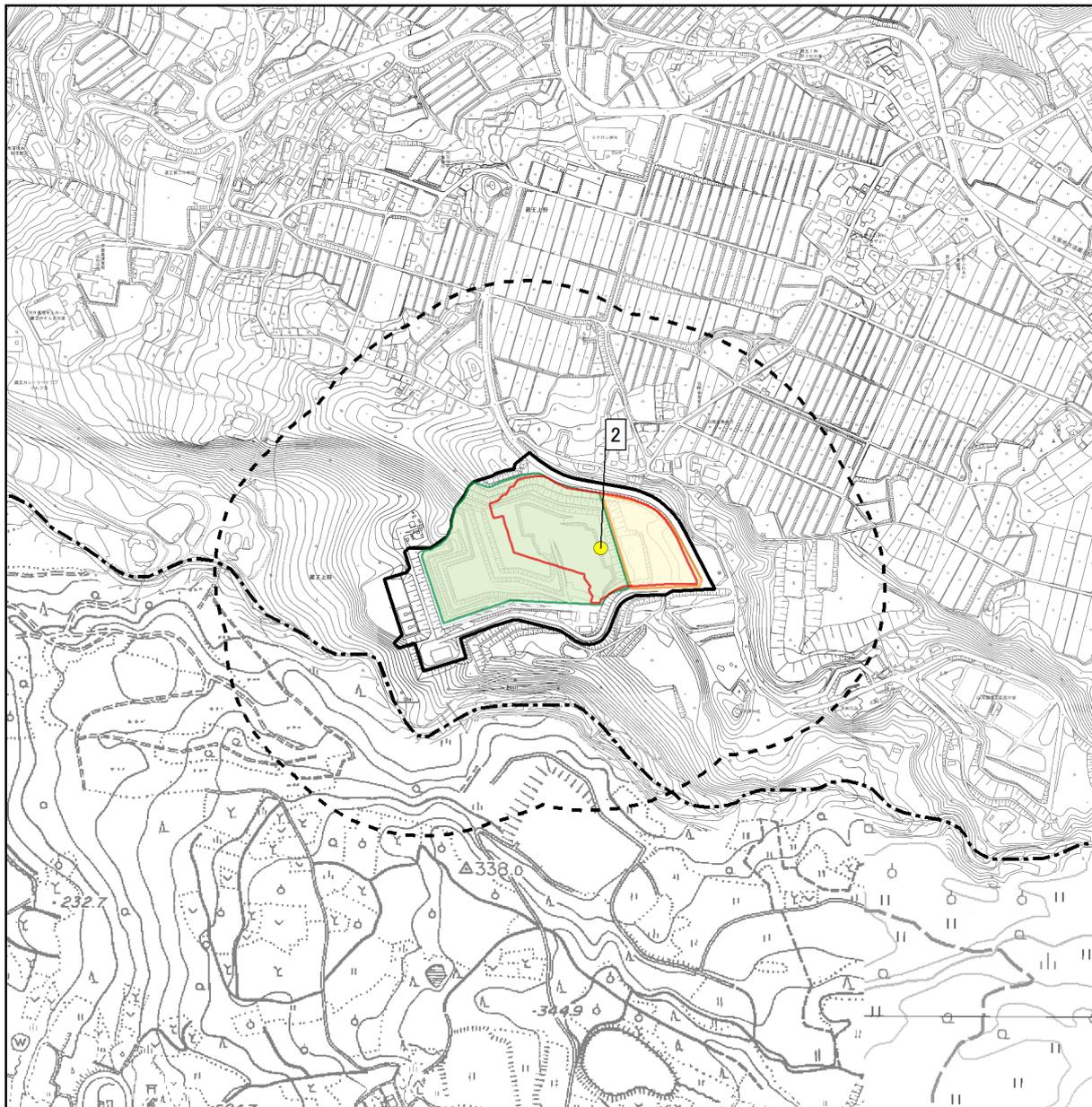
1:10,000

※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-14(1) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図 (ミツカドコオロギ)

表 10.5-35(2) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		イボバッタ	
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		I : - II : - III : - IV : 準絶滅危惧 (NT)	
分布・一般生態		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本州、四国、九州、その他多くの離島に分布する。</li> <li>・年1化で、成虫は7~11月に見られる。</li> <li>・体色が有効な隠蔽色となり、地面が露出した場所にいる。強い陽射しや乾燥に強く、よく飛ぶ。</li> </ul>	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	秋季調査時に1地点で2個体確認した。確認環境は造成地であった。
		対象事業実施区域外	確認なし。
影響 予測	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施により、本種の主な生息環境である草地環境の約15.0%改変される。なお、改変率は本種の生息が確認された対象事業実施区域内で確認された草地環境であるヨモギ・メドハギ群落を対象として算出した。</li> <li>・工事の実施により、生息が確認された対象事業実施区域内の造成地環境が約47.5%改変されるが、本種の主な生息環境である草地環境は、対象事業実施区域内及び周辺に広く分布している。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	
	土地又は工作物の存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である草地環境の約15.0%で埋立作業が実施される。なお、埋立作業が実施される草地環境の割合は、本種の生息が確認された対象事業実施区域内で確認された草地環境であるヨモギ・メドハギ群落を対象として算出した。</li> <li>・土地又は工作物の存在・供用により、生息が確認された対象事業実施区域内の造成地環境の約47.5%で埋立作業が実施されるが、本種の主な生息環境である草地環境は、対象事業実施区域内及び周辺に広く分布している。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	

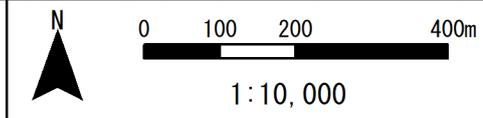


凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- 動物植物調査範囲  
(対象事業実施区域から250m程度)
- 埋立範囲(改変区域)

重要な種確認位置

- 春季
- 夏季
- 秋季

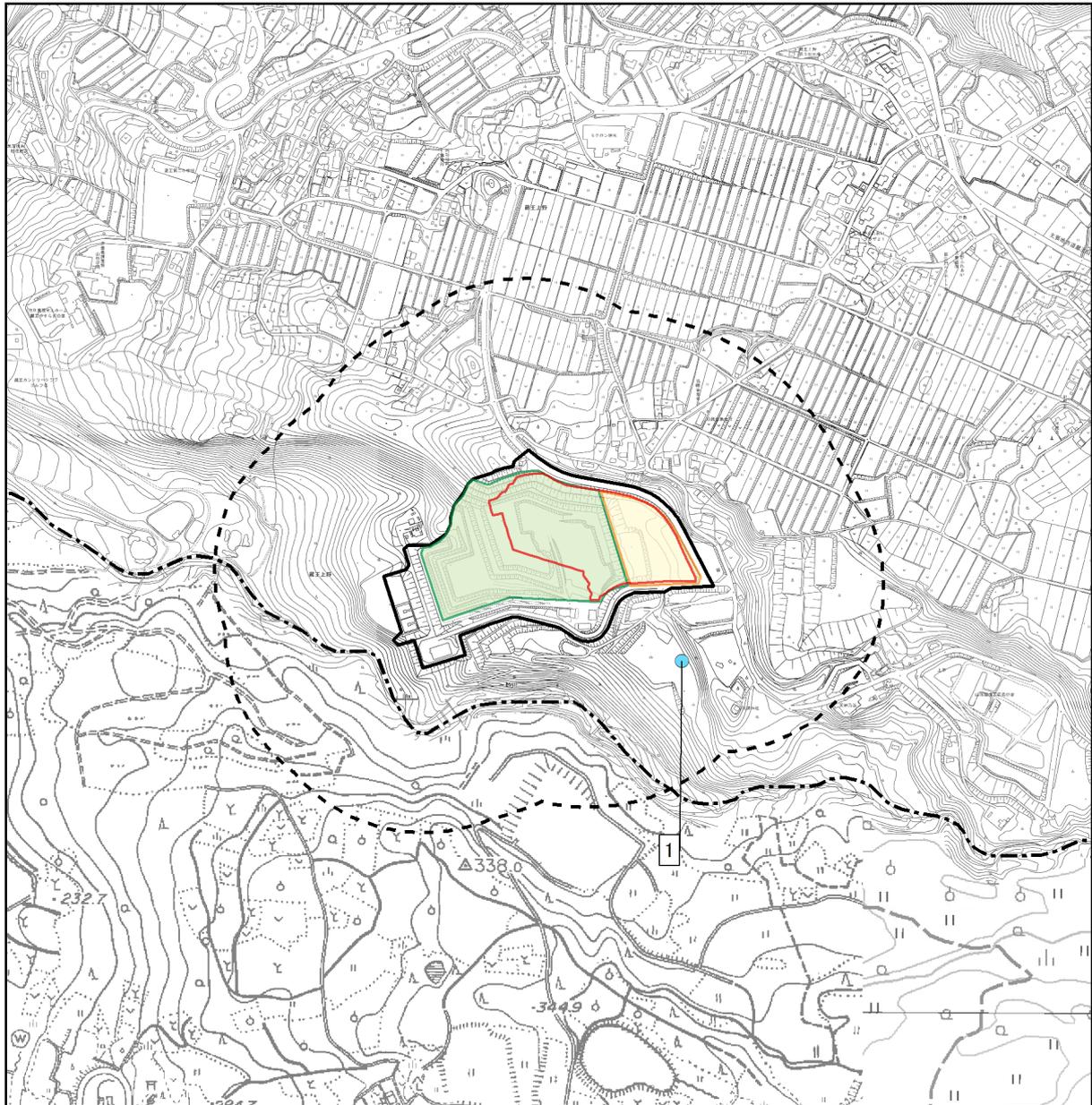


※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-14(2) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図 (イボバツタ)

表 10.5-35(3) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		マダラウスバカゲロウ	
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		I : - II : - III : - IV : 準絶滅危惧 (NT)	
分布・一般生態		<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道、本州、四国、九州に分布する。</li> <li>・成虫は6月上旬から9月中旬にわたって出現する。</li> <li>・幼虫は噴火口状の穴を作らず、岩の表面や樹皮などの凹所に静止し、小昆虫を捕食して成長する。</li> </ul>	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	夏季調査時に1地点で1個体確認した。確認環境は樹林であった。
影響 予測	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	
	土地又は工作物の存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	

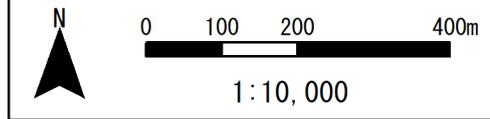


凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- 動物植物調査範囲  
(対象事業実施区域から250m程度)
- 埋立範囲(改変区域)

重要な種確認位置

- 春季
- 夏季
- 秋季

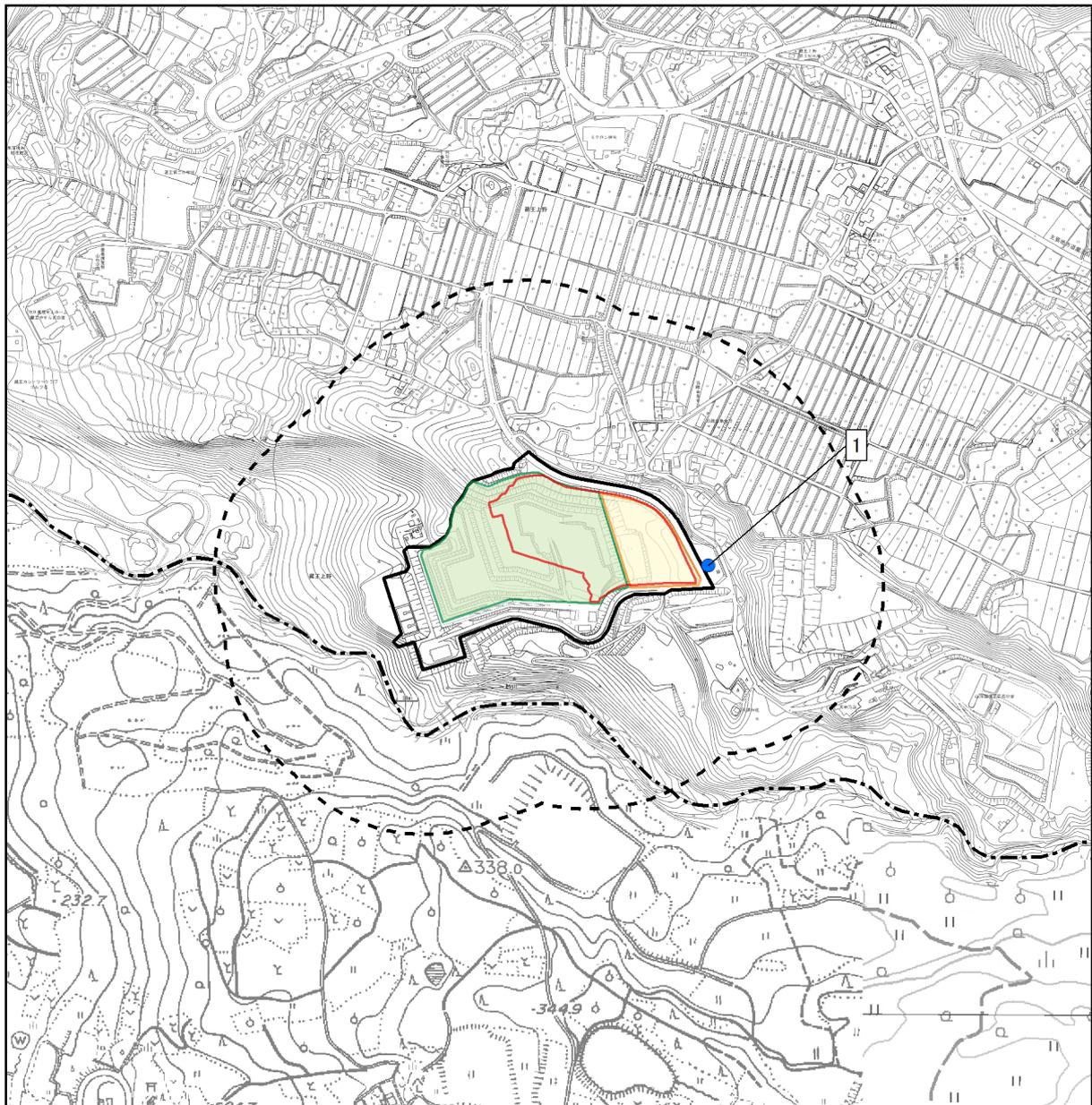


※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-14(3) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図(マダラウスバカゲロウ)

表 10.5-35(4) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		ミヤマチャバネセセリ	
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		I : - II : - III : - IV : 準絶滅危惧 (NT)	
分布・一般生態		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本州（隠岐島を含む）、四国、九州に分布する。</li> <li>・通常年 2 回（4 月中旬～5 月上旬、7 月上旬～8 月上旬）発生する。</li> <li>・成虫は高地の草原や山間の路傍、湿原の周縁に多く生息し、飛翔は敏速だがアザミ類、オカトラノオ、ウツギなどで吸蜜し、雄は湿地で吸水もする。</li> <li>・主な食草はイネ科のススキで、ヨシ、アブラススキからも幼虫が見つかっている。越冬態は蛹。</li> </ul>	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	春季調査時に 1 地点で 1 個体確認した。確認環境は草地であった。
影響 予測	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施により、本種の主な生息環境である草地環境（ススキ群落、ヨシ群落）は改変されない。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	
	土地又は工作物の存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である草地環境（ススキ群落、ヨシ群落）は改変及びその他の環境の変化を受けない。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	

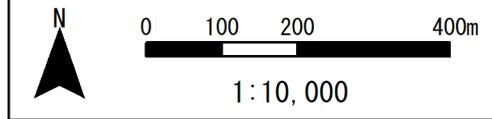


凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- 動物植物調査範囲  
(対象事業実施区域から250m程度)
- 埋立範囲(改変区域)

重要な種確認位置

- 春季
- 夏季
- 秋季

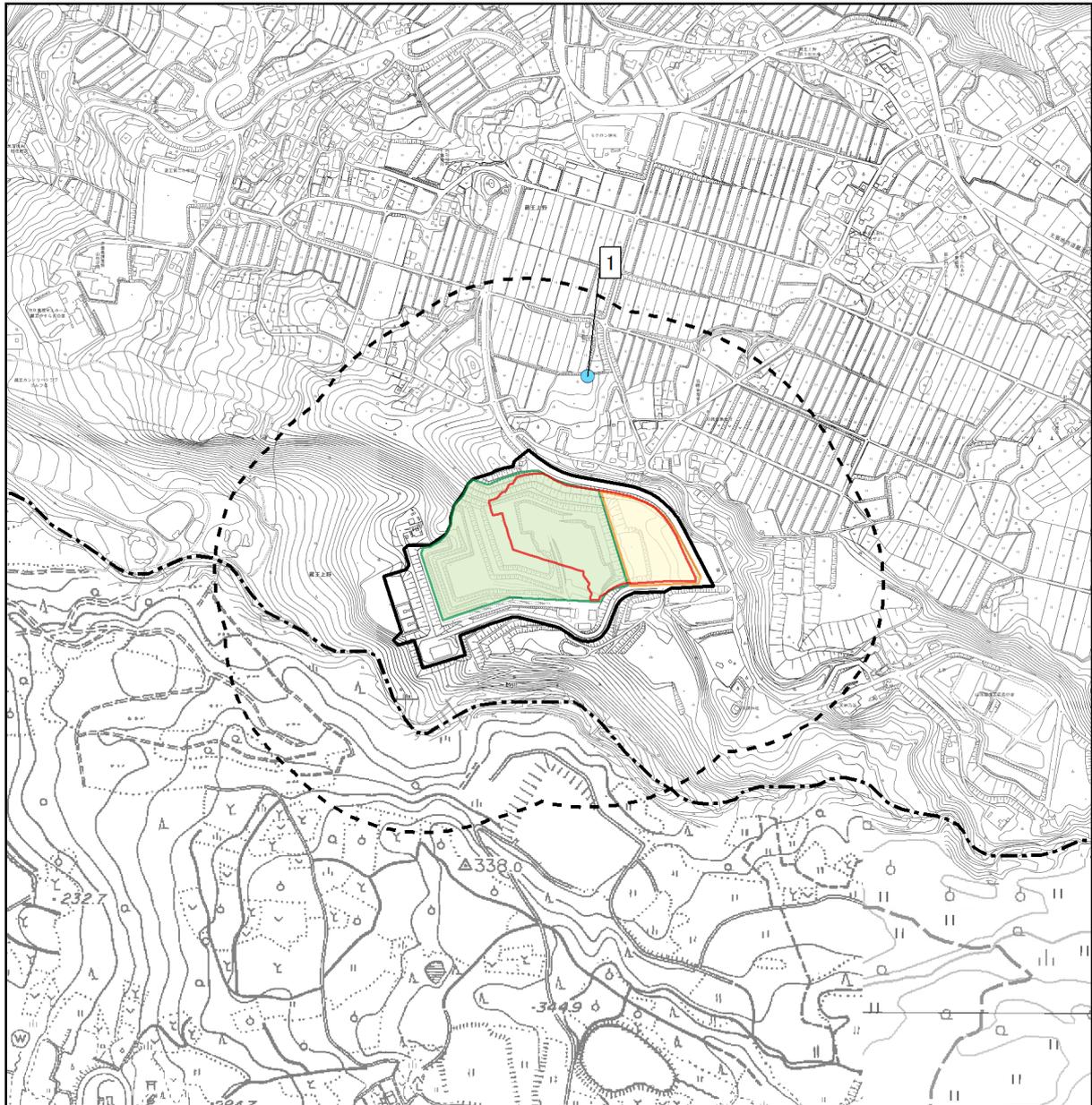


※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-14(4) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図 (ミヤマチャバネセセリ)

表 10.5-35(5) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		ウラギンスジヒョウモン	
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		I : - II : - III : 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) IV : 準絶滅危惧 (NT)	
分布・一般生態		<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道、本州、四国、九州に分布する。</li> <li>・年1化で、成虫は暖地では5月下旬～6月上旬、山地、寒冷地では7月上旬～8月上旬に姿をみせる。</li> <li>・明るい草原、堤防などに多く生息し、飛翔は比較的敏速でアザミ類、オカトラノオ、ハナウド、ヒヨドリバナ、シモツケソウなどの花で吸蜜する。</li> <li>・幼虫の食草はスミレ科の各種スミレ類で、越冬態は卵または初齢幼虫。</li> </ul>	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	夏季調査時に1地点で1個体確認した。確認環境は草地であった。
影響予測	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施により、本種の主な生息環境である草地環境の約15.0%が改変される。なお、改変率は本種の生息が確認されたヨモギ・メドハギ群落を対象として算出した。</li> <li>・草地環境の一部は、工事の実施に伴い改変されるが、本種の主な生息環境である草地環境は周辺に広く分布している。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	
	土地又は工作物の存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である草地環境の約15.0%で埋立作業が実施される。なお、埋立作業が実施される草地環境の割合は、本種の生息が確認されたヨモギ・メドハギ群落を対象として算出した。</li> <li>・草地環境の一部は、土地又は工作物の存在・供用により埋立作業が実施されるが、本種の主な生息環境である草地環境は周辺に広く分布している。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	



凡例

□ 対象事業実施区域

--- 市界

■ 第一期埋立地

■ 第二期埋立地

--- 動物植物調査範囲  
(対象事業実施区域から250m程度)

□ 埋立範囲(改変区域)

重要な種確認位置

● 春季

● 夏季

● 秋季



0 100 200 400m

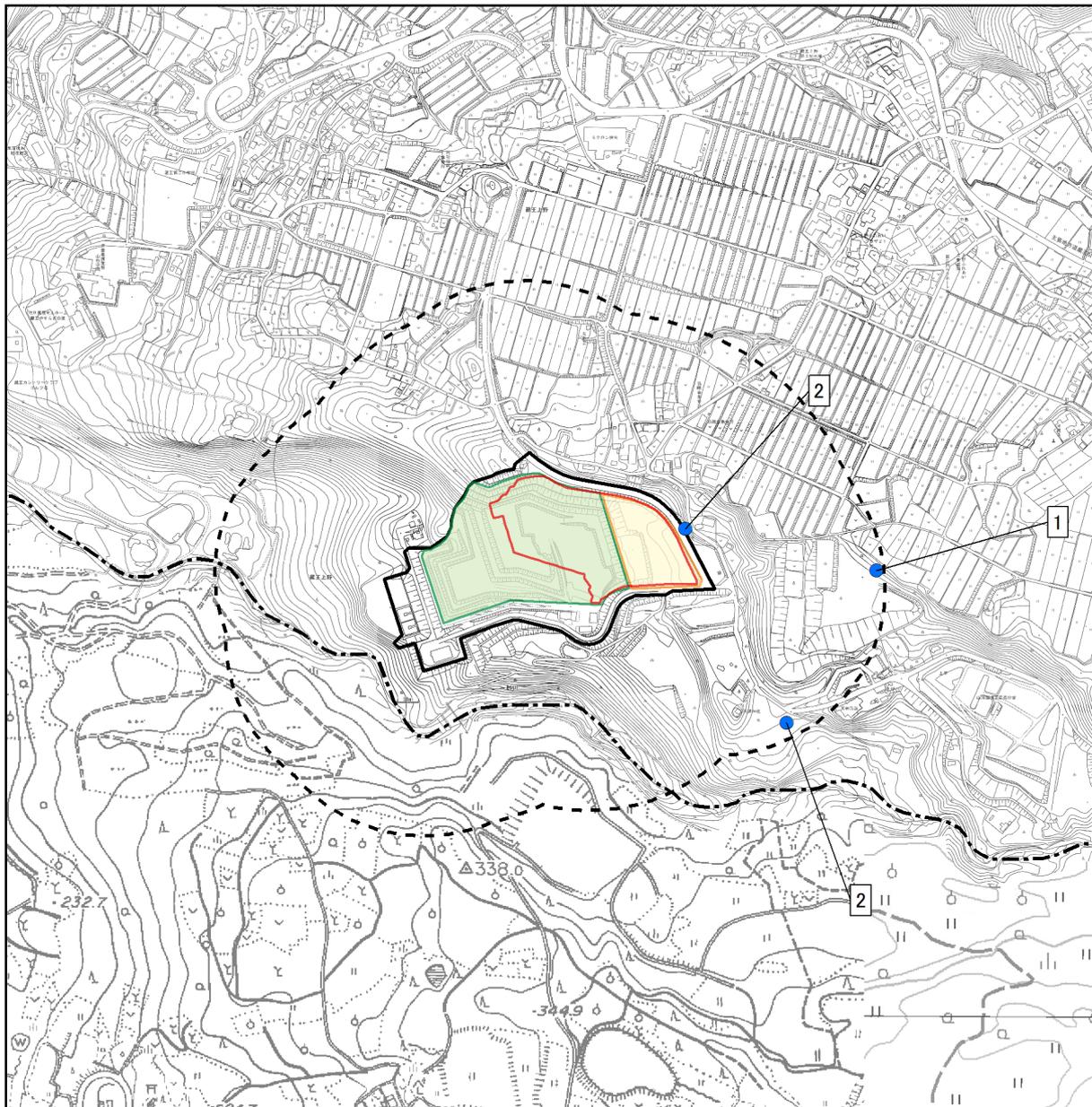
1:10,000

※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-14(5) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図 (ウラギンスジヒョウモン)

表 10.5-35(6) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		オオムラサキ	
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		I : - II : - III : 準絶滅危惧 (NT) IV : 準絶滅危惧 (NT)	
分布・一般生態		<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道、本州、四国、九州に分布する。</li> <li>・年1化で、北海道や高地、寒冷地では7月上～中旬、暖地では6月中～下旬に出現する。</li> <li>・成虫は人家近くの雑木林に多く棲息し、クヌギ、クワなどの樹液やクリ、クサギなどの花で吸汁、吸蜜する。</li> <li>・幼虫は暖地ではニレ科のエノキ、寒冷地ではエゾエノキを食樹とする。越冬態は4齢幼虫（時に3齢または5齢）。</li> </ul>	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	春季調査時に3地点で5個体確認した。確認環境は樹林であった。
影響 予測	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	
	土地又は工作物の存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	



凡例

□ 対象事業実施区域

--- 市界

■ 第一期埋立地

■ 第二期埋立地

--- 動物植物調査範囲  
(対象事業実施区域から250m程度)

□ 埋立範囲(改変区域)

重要な種確認位置

● 春季

● 夏季

● 秋季



0 100 200 400m

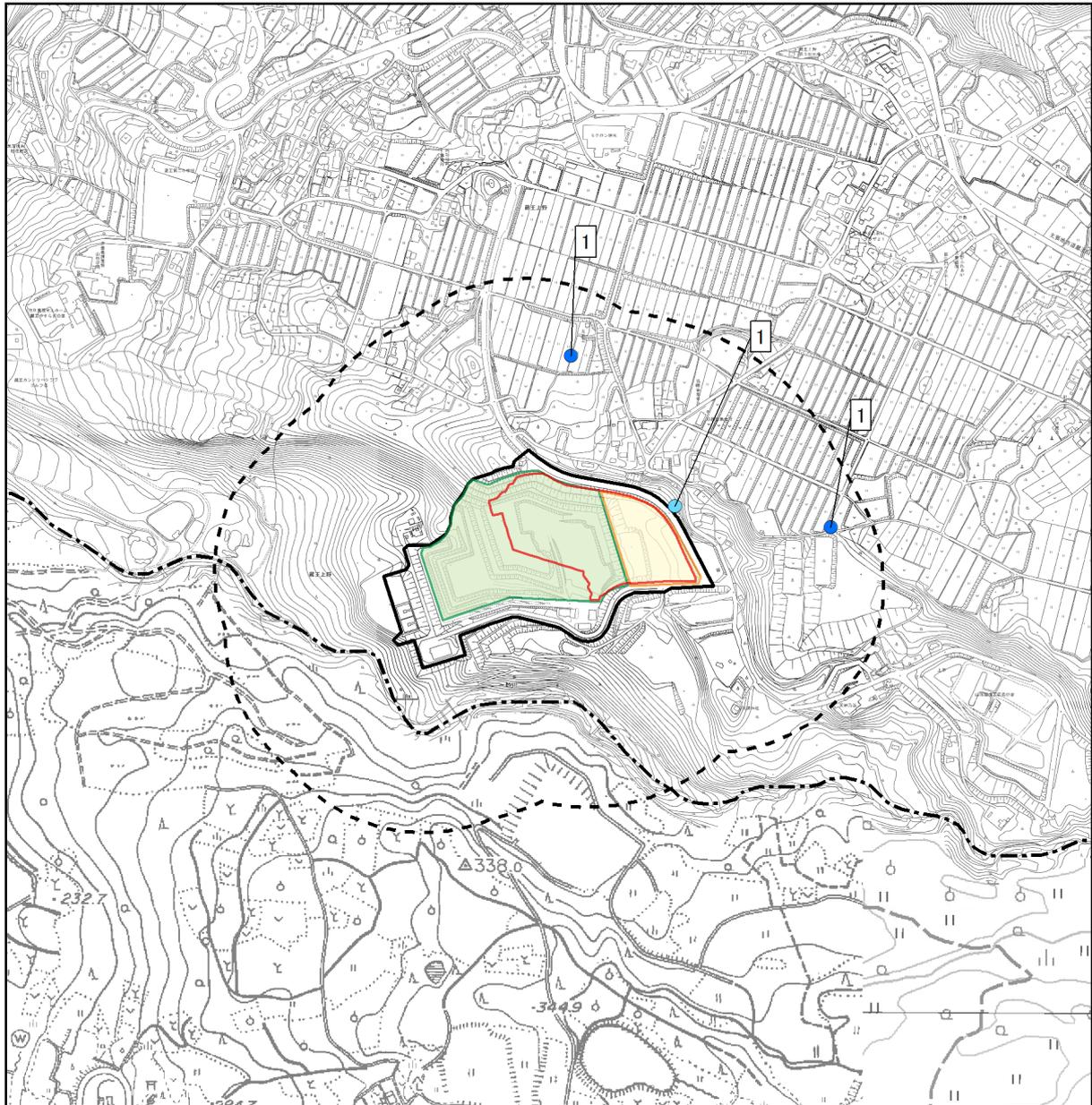
1:10,000

※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-14(6) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図(オオムラサキ)

表 10.5-35(7) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		コガムシ	
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		I : - II : - III : 情報不足 (DD) IV : -	
分布・一般生態		<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道、本州、四国、九州に分布する。</li> <li>・一般的には、平野部～丘陵部の有機物の豊富な浅い池沼、湿地、水田に生息する。</li> <li>・6月頃に水草の間に白いまゆ状のゆりかごをつくり、その中に産卵する。成虫は主に草食性である。</li> <li>・幼虫は肉食性で他の水生昆虫や巻貝などを捕食する。3齢になり老熟すると岸辺に上陸し土中で蛹化する。</li> </ul>	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	春季調査時に2地点で計2個体、夏季調査時に1地点で1個体確認した。確認環境は水田や樹林地の林縁部であった。
影響 予測	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施により、本種の主な生息環境である水田や農業用水路等の水辺環境は改変されない。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	
	土地又は工作物の存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である水田や農業用水路等の水辺環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	



凡例

□ 対象事業実施区域

--- 市界

■ 第一期埋立地

■ 第二期埋立地

--- 動物植物調査範囲  
(対象事業実施区域から250m程度)

□ 埋立範囲(改変区域)

重要な種確認位置

● 春季

● 夏季

● 秋季



0 100 200 400m

1:10,000

※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-14(7) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図 (コガムシ)

表 10.5-35(8) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		モンズズメバチ	
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		I : - II : - III : 情報不足(DD) IV : 情報不足(DD)	
分布・一般生態		<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道、本州、四国、九州、佐渡島に分布する。</li> <li>・餌としてセミ類を好んで捕えるとともに、各種のアシナガバチの巣を襲って、幼虫や蛹を餌とする。夕暮れ時から日没後にかけても巣外の活動が見られる。</li> </ul>	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	夏季調査時に1地点で1個体確認した。確認環境は樹林であった。
影響 予測	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境（樹洞）や建物（天井裏等）は改変されない。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	
	土地又は工作物の存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境（樹洞）や建物（天井裏等）は改変及びその他の環境の変化を受けない。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	

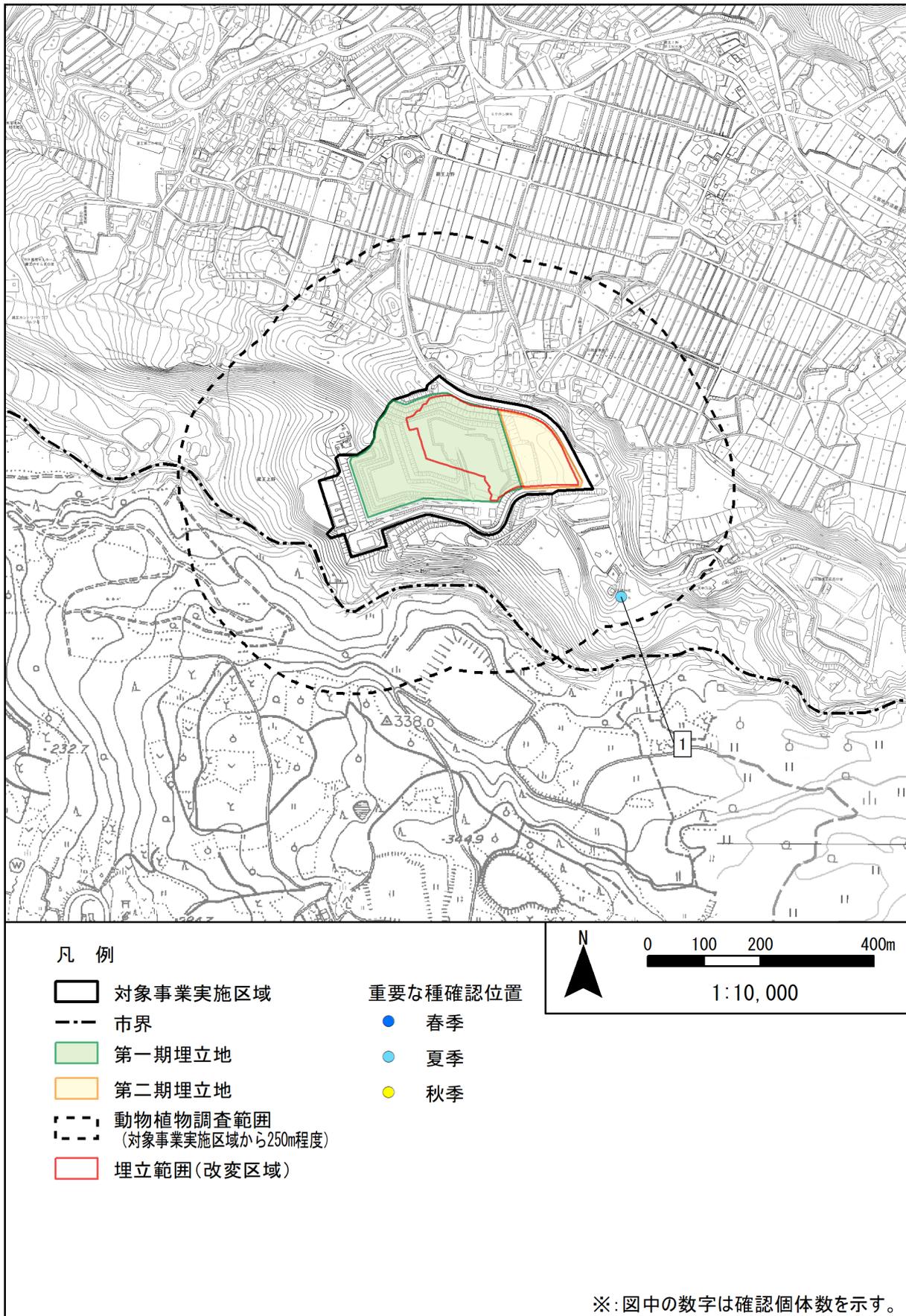
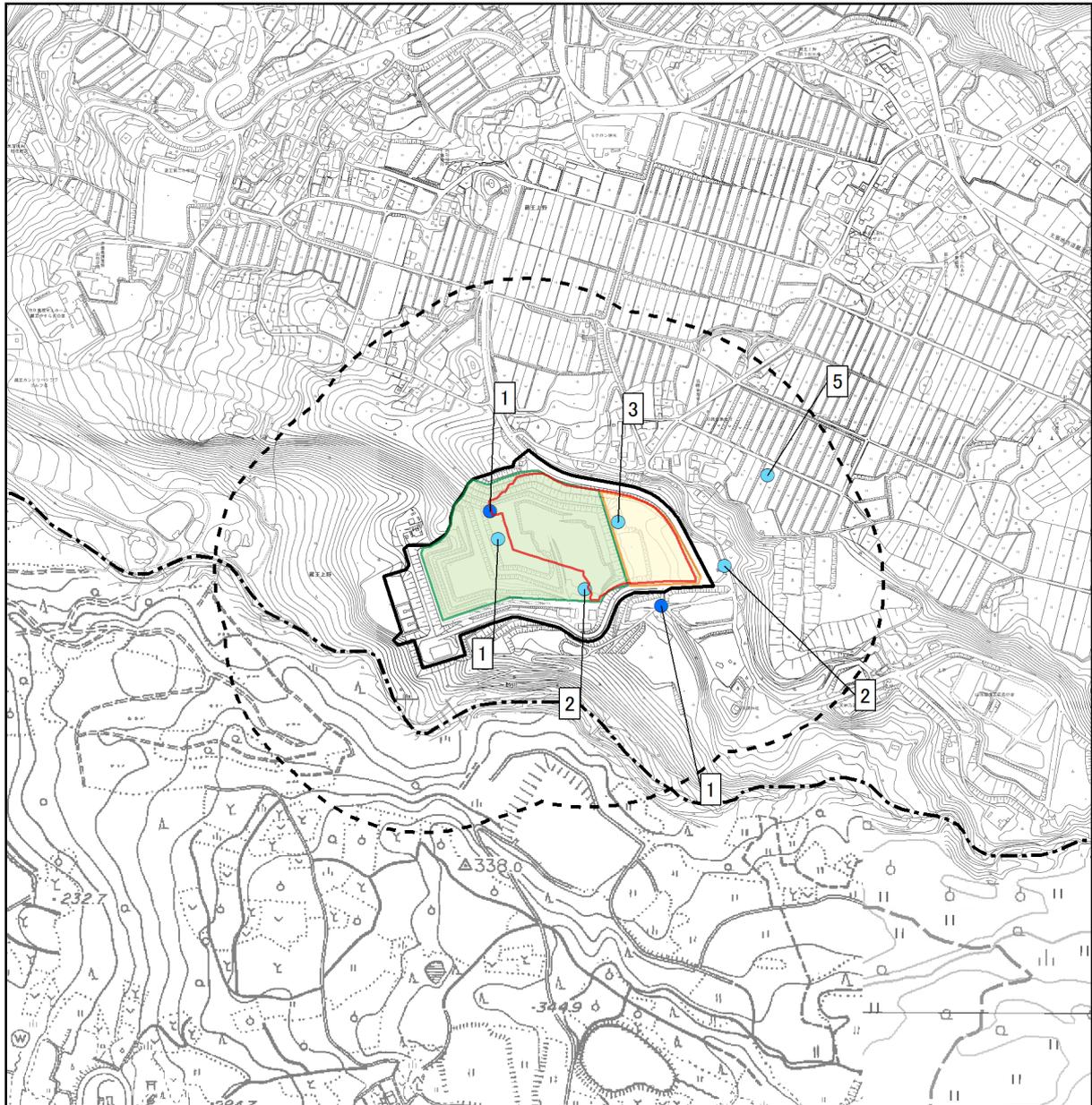


図 10.5-14(8) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図 (モンズズメバチ)

表 10.5-35(9) 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		クロマルハナバチ	
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		I : - II : - III : 準絶滅危惧 (NT) IV : 準絶滅危惧 (NT)	
分布・一般生態		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本州、四国、九州に分布する。</li> <li>・女王は4～5月、働き蜂は5～10月、雄は7～10月に出現する。訪花植物はシロツメクサ、サクラ類、ツツジ類など。</li> </ul>	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	春季調査時に1地点で1個体、夏季調査時に3地点で計6個体確認した。確認環境は草地であった。
		対象事業実施区域外	春季調査時に1地点で1個体、夏季調査時に2地点で計7個体確認した。確認環境は草地であった。
影響予測	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変されない。</li> <li>・工事の実施により、生息が確認された対象事業実施区域内の草地環境が約15.0%改変されるが、本種の主な生息環境である草地環境は、対象事業実施区域内及び周辺に広く分布している。なお、改変率は本種の生息が確認された対象事業実施区域内で確認された草地環境であるヨモギ・メドハギ群落を対象として算出した。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	
	土地又は工作物の存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である樹林環境は改変及びその他の環境の変化を受けない。</li> <li>・土地又は工作物の存在・供用により、生息が確認された対象事業実施区域内の草地環境の約15.0%で、埋立作業が実施されるが、本種の主な生息環境である草地環境は、対象事業実施区域内及び周辺に広く分布している。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	

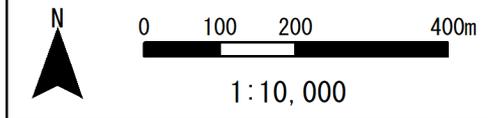


凡 例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- 動物植物調査範囲  
(対象事業実施区域から250m程度)
- 埋立範囲(改変区域)

重要な種確認位置

- 春季
- 夏季
- 秋季



※: 図中の数字は確認個体数を示す。

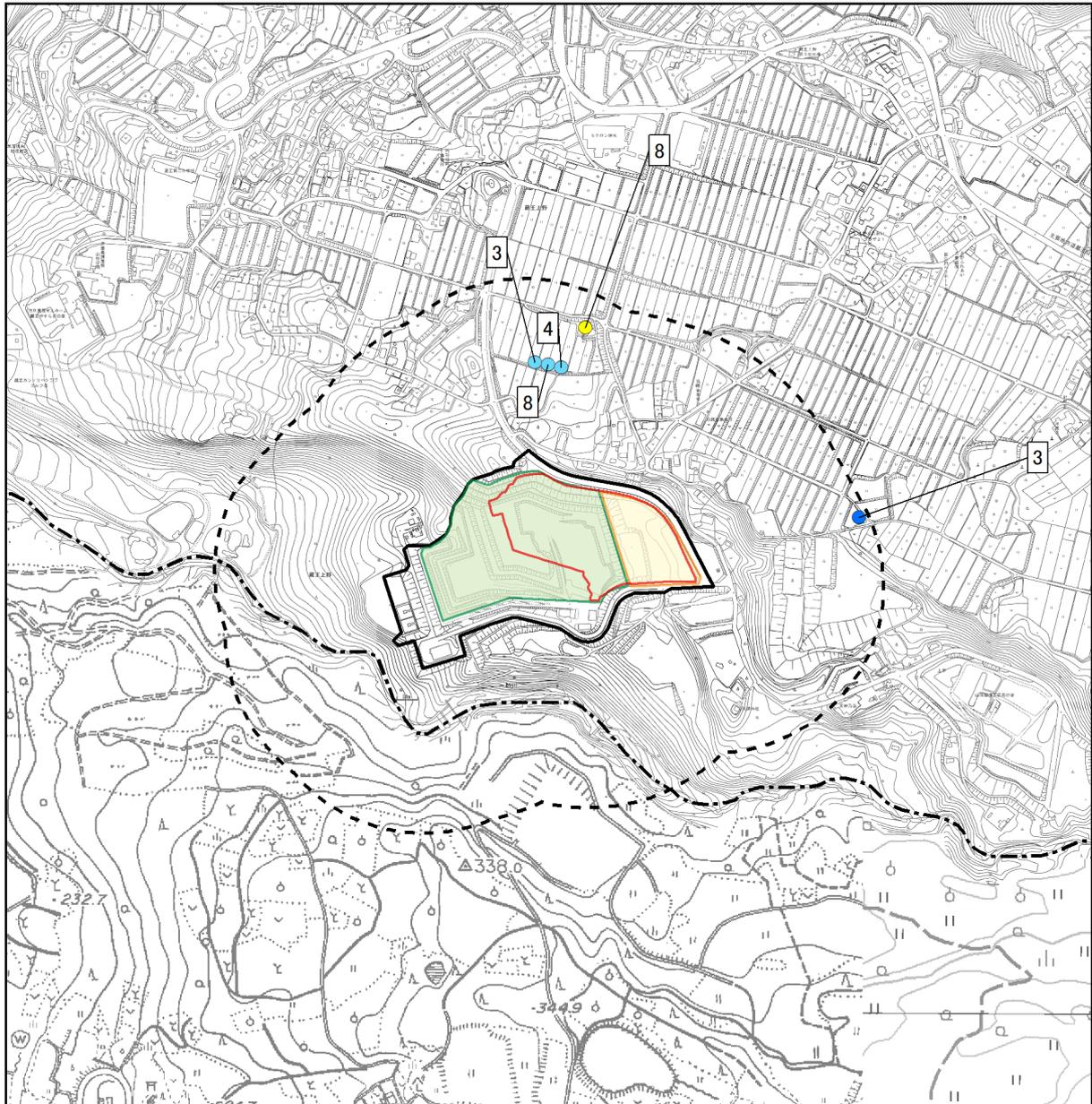
図 10.5-14(9) 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図 (クロマルハナバチ)

7) 魚類

魚類の重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響の予測結果は、表 10.5-36 及び図 10.5-15 に示すとおりである。

表 10.5-36 重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響予測

種名		ドジョウ	
重要な種の選定基準 重要な種の選定基準は、 前掲表 10.5-4 に対応する。		I : - II : - III : 準絶滅危惧 (NT) IV : -	
分布・一般生態		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本全国に分布。国外ではアムール川水系からインドシナ半島に分布。</li> <li>・水田や農業水路、湿地帯などの流れのない泥底の環境に生息する。</li> <li>・初夏に、水田やタマリなどの一時的な水域に遡上して産卵を行う。</li> <li>・腸呼吸を行うことができる。</li> </ul>	
確認状況及び 主な生息環境		対象事業実施区域内	確認なし。
		対象事業実施区域外	春季調査時に 1 地点で 3 個体、夏季調査時に 3 地点で計 15 個体、秋季調査時に 1 地点で 8 個体を確認した。確認環境はいずれも水田脇の小規模な土水路であった。
影響予測	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の実施により、本種の主な生息環境である水田や農業用水路は改変されない。</li> <li>・工事の実施に伴い発生する濁水は、生息が確認された農業用水路には排水しない。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	
	土地又は工作物の存在・供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地又は工作物の存在・供用により、本種の主な生息環境である水田や農業用水路は改変及びその他の環境の変化を受けない。</li> <li>・土地又は工作物の存在・供用に伴い発生する浸出水処理施設の排水は、生息が確認された農業用水路には排水しない。</li> </ul> <p>以上のことから、重要な種及び注目すべき生息地の生息環境への影響は、ほとんどない、あるいは生じないと予測される。</p>	

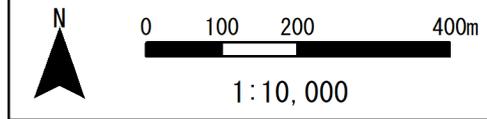


凡例

- 対象事業実施区域
- 市界
- 第一期埋立地
- 第二期埋立地
- 動物植物調査範囲  
(対象事業実施区域から250m程度)
- 埋立範囲(改変区域)

重要な種確認位置

- 春季
- 夏季
- 秋季
- 冬季



※: 図中の数字は確認個体数を示す。

図 10.5-15 重要な種の確認位置と改変区域の重ね合わせ図(ドジョウ)

8) 底生生物

予測対象とする底生生物の重要な種は確認されていない。

### (3) 環境保全措置

本事業の実施にあたり、生息環境への影響があると予測された重要な動物種及び注目すべき生息地への影響を回避、低減するために、表 10.5-37 及び表 10.5-38 に示す環境保全措置を実施する計画である。

#### ① 工事中における重要な動物種及び注目すべき生息地への配慮

表 10.5-37 環境保全措置（工事中）

項目	保全対象種	環境保全措置	
哺乳類	カモシカ (ウシ目含む)	ロードキルの防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロードキルを回避するため、対象事業実施区域内を走行する車両は徐行運転を行う。</li> <li>・夜行性動物の忌避やロードキルの発生を回避するため、早朝・夜間の工事関係車両の走行は行わない。</li> </ul>
鳥類	コチドリ	繁殖利用の防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繁殖時期（3月～7月頃）に鳥獣害対策として利用されている猛禽類の形をしたカイトを設置し、工事施工範囲内での繁殖を忌避させる。</li> </ul>
爬虫類	ジムグリ	ロードキルの防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロードキルを回避するため、対象事業実施区域内を走行する車両は徐行運転を行う。</li> <li>・夜行性動物の忌避やロードキルの発生を回避するため、早朝・夜間の工事関係車両の走行は行わない。</li> </ul>
動物全般		騒音・振動影響の低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設機械は、低騒音型・低振動型の機種を使用する。</li> </ul>

#### ② 存在・供用時における重要な動物種及び注目すべき生息地への配慮

表 10.5-38 環境保全措置（存在・供用時）

項目	保全対象種	環境保全措置	
哺乳類	カモシカ (ウシ目含む)	ロードキルの防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロードキルを回避するため、対象事業実施区域内を走行する車両は徐行運転を行う。</li> <li>・夜行性動物の忌避やロードキルの発生を回避するため、早朝・夜間の廃棄物の運搬その他の車両の走行は行わない。</li> </ul>
爬虫類	ジムグリ		
動物全般		騒音・振動影響の低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物の埋立・覆土用機械は、低騒音型・低振動型の機種を使用する。</li> </ul>

(4) 評価

① 評価の手法

1) 環境影響の回避、低減に係る評価

予測結果を踏まえ、存在・供用による重要な動物種及び注目すべき生息地の生息環境への影響が、事業者の実行可能な範囲で回避又は低減されているかを評価した。

2) 環境保全に関する施策との整合性に係る評価

選定基準（表 10.5-39）に当てはまる重要な動物種及び注目すべき生息地について、影響の程度に応じ、適切な保全が図られているかを評価する。

表 10.5-39 重要な種の選定基準

選定基準		発行年等
I	文化財保護法	昭和 25 年 法律第 214 号
II	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	平成 4 年 法律第 75 号
III	環境省レッドリスト 2020	令和 2 年 環境省
IV	山形県第 2 次レッドリスト(鳥類、昆虫)	平成 27 年 山形県
	山形県第 2 次レッドリスト(哺乳類、爬虫類、両生類、陸産・淡水産貝類、甲殻類、淡水魚類)	平成 30 年 山形県

## ② 評価の結果

### 1) 環境影響の回避、低減に係る評価

工事中及び存在・供用時による重要な動物種及び注目すべき生息地の生息環境について、カモシカ、コチドリ及びジムグリに対して生息環境への影響があると予測した。

これらの生息環境への影響があると予測された重要な動物種及び注目すべき生息地への影響を回避、低減するための環境保全措置として、ロードキルの防止、繁殖利用の防止を行う。

以上のことから、重要な種の選定基準に当てはまる重要な動物種及び注目すべき生息地について、影響の程度に応じ、適切な保全が図られていると評価する。

### 2) 環境保全に関する施策との整合性に係る評価

「文化財保護法」及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に該当する重要な動物種は、1種（カモシカ）が確認された。

「環境省レッドリスト 2020」等の既存文献の掲載種に該当する動物種は、36種が確認された。

生息環境への影響があると予測された重要な動物種及び注目すべき生息地への影響を回避、低減するための環境保全措置として、ロードキルの防止、繁殖利用の防止、工事実施時期の配慮を行う。

以上のことから、重要な種の選定基準に当てはまる重要な動物種及び注目すべき生息地について、影響の程度に応じ、適切な保全が図られていると評価する。

### (5) 有識者の主な意見

調査、予測及び評価にあたっては、有識者へのヒアリングを実施した。  
主な意見は、以下に示すとおりである。

○有識者の専門分野：動物全般

○有識者の所属：個人（元博物館専門学芸員）

### ① 現地調査計画について

- ・現地調査計画は妥当である。
- ・現地調査時期は、それぞれの分類群ごとに概ね適切な時期に設定されている。
- ・両生類は、繁殖期にあたる早春季の調査は重要である。特に、雪解けの時期に林地内に一時的に現れる湿地や水域、林地周辺の小水路に注目して任意観察調査を進めるようにしてほしい。
- ・イノシシの生息状況は、フィールドサインや自動撮影カメラを用いて把握する方法で問題はない。春季調査は、雪解けで地面が現れて活動が活発化する時期に合わせ、4月下旬よりも少し早めに設定した方が良いかもしれない。
- ・カラスの生息状況は、猛禽類調査時に上野最終処分場内の利用状況を把握する方法で問題はない。

## ② 現地調査結果について

- ・猛禽類の調査結果は、妥当な確認種であり、対象事業実施区域の利用状況も十分な知見が得られたと判断できる。
- ・猛禽類調査は、令和4年度の結果をみれば、令和5年度に同じ内容での継続調査は必要ないと考えられる。
- ・動物の調査結果は、妥当な確認種である。各分類群の確認種リストで誤同定、ないし生息の可能性が低いと思われる種は確認できなかった。

## ③ 予測、環境保全措置、評価について

- ・事業影響があると予測した種（カモシカ、コチドリ、ジムグリ）は妥当である。
- ・これら3種は、工事の実施期間ならびに新たに造成される処分場の供用に際しては、影響の回避や低減などを図るための環境保全措置を実施し、その影響を最小限に抑える対策を講じることが望まれる。
- ・カモシカ及びジムグリの環境保全措置は、ロードキルの防止として、両種の活発な活動が見られる朝方や夕方の方の工事及び廃棄物の搬入を制限することは妥当である。
- ・コチドリによる造成地の繁殖地としての利用は、河川の河原などの砂礫地を利用して行われる本種の繁殖生態の本来の姿ではない。工事予定地をブルーシート等で覆うことで繁殖利用を防止したり、繁殖が確認された場合は巣立ちまで工事を変更・延期するといった環境保全措置は、現実的には事業に大きな負担を強いるものと考ええる。
- ・コチドリは、外敵が近づくと翼を広げて身を屈め傷ついた振りをして巣から離れ、外敵の注意を巣から反らす「擬傷」という行動をとる。本種の環境保全措置は、この習性を逆手に取り、畑地などで小鳥よけに使われている猛禽類やカラスを模した凧や風船を設置して、造成地での営巣を忌避させる方法も有効な対策の一つになり得る可能性がある。

